

TV(VHF・UHF)/AM/FMステレオチューナー

# TX-6800II

¥42,800

## 充実したFM部に加えて、VHF・UHF TVサウンドチューナーを内蔵。 TVサウンドが美しい音質で楽しめるFM/AM/TVチューナー。

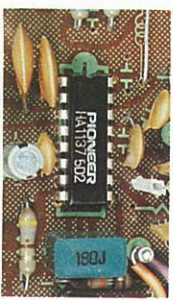


させた、3連ノリコンとFETの構成。

FMフロントエンドは、雑音指数の低いFETと、周波数直線型の3連ノリコンを組合せた、高周波1段増幅つきのハイクラスな回路。実用感度は1.9μV (IHF)の高さ、妨害波などに対する排除能力も十分に高く、強電界でも、弱電界でも、狙った電波を確実にキャッチします。

パイオニアが開発した専用IC採用のFM IF部。実効選択度60dB、キャプチャレシオ1.0dBの高性能。

FM IF部には、合計200素子分以上の要素を1個にまとめた、専用高集積度ICを使用。また選択素子には位相特性のすぐれた、フェイズリニアセラミックフィルターを採用。これにより実効選択度は60dBと高く、相当強力な隣接波の妨害があっても、混信したり音質が影響を受けたりすることはほとんどありません。そしてキャプチャレシオも1.0dBですから、受信局と同じ周波数に不要電波があっても、1dBのレベル差があればこれを抑えてしまう高性能です。また、この回路では5段のリミッターにより、AM成分の雑音などを大幅に低減。高調波歪率0.3%以下(100Hz・1kHz/ステレオ)、SN比68dB以上(ステレ

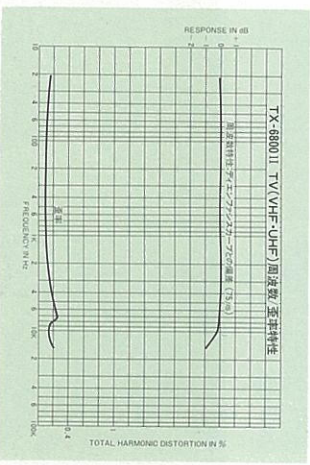


で、幅広いサウンドライフをお楽しみください。

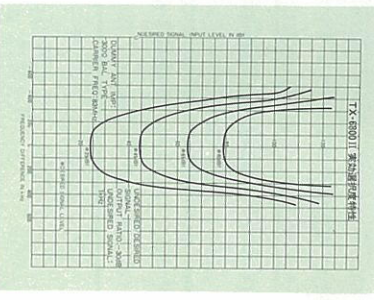
TVサウンドは、VHF・UHFのオールバンドを美しい音質で受信。

TX-6800IIのTVサウンド受信は、VHF帯域が1~12チャンネル、UHF帯域が13~62チャンネルと、すべてのテレビ放送を聴くことができます。しかもFM受信と同様に直線性の良い検波器によって低ひずみ率で復調しますから、低域・高域とも十分に伸びのあるすべれた音質。SN比65dB、高調波歪率0.1%(100Hz・1kHz/VHF)の特性です。また、セクターチューニングメーターはTVサウンド受信時にも働きますので、VHFはトリセツ式のフアンチューニングにより、UHFはチャンネルツマミ

によって最良の受信点に微調整ができます。さらにAMやFM受信からTVサウンドに切換えたときに、出力レベルが変化しないよう配慮されています。



FMフロントエンドは、感度と妨害排除能力を向上



# TX-6800IIの規格

【FM部】

回路方式	FET R F 1段、3連Vコ、5段Vミツ
感度	モノノ……………2.8μV、新HF14.0dBf
実用感度	モノノ……………44μV、新HF38.0dBf
SN比	モノノ……………1.9μV、新HF10.7dBf
高調波歪率	モノノ……………0.15%(100Hz) 0.15%(1kHz)
ステレオ	モノノ……………0.22%(100Hz) 0.3%(1kHz)
モノノ……………0.6%(100Hz)	
キャパチエレンシオ	……………1.0dB
実効歪率	……………0.08B(400kHz)
ステレオセパレーション	……………40dB(1kHz)

周波数特性	……………300B(30Hz~15kHz)
……………20Hz~10kHz±0.5dB	
……………20Hz~15kHz±1.0dB	
イメージ妨害比	……………60dB
IF妨害比	……………90dB
スプリアス妨害比	……………75dB
AM抑圧比	……………50dB
サフキャリア比	……………62dB
ミューテナインク動作レベル	……………1.7μV(100B)

【AM部】	
回路方式	非同調RF1段、2連Vコ
実用感度	……………300μV/m
外部アンテナ	……………15μV
選択度	……………30dB
SN比	……………50dB
イメージ妨害比	……………45dB
IF妨害比	……………50dB

【TVチューナー部】	
VHF	……………130Hz~620Hz
受信チャンネル	……………10~120Hz
実用感度(S/N30dB)	……………2.5μV
SN比	……………55dB
高調波歪率	……………0.1%(100Hz, 1kHz)
周波数特性	……………10kHz~10kHz±0.5dB
イメージ妨害比	……………85dB
IF妨害比	……………90dB
スプリアス妨害比	……………65dB

【使用半導体】	
FET	……………2
IC	……………3
トランジスタ	……………17
ダイオード	……………17

【出力部】	
レベル/出力インピーダンス	……………FM(100%変調)……………650mV/4.8kΩ
……………AM(30%変調)……………150mV/5.4kΩ	
……………TV(100%変調)……………400mV/4.8kΩ	

【電源部・その他】	
電源電圧	……………100V、50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)	……………12W
外形寸法	……………380(W)×138(H)×322(D)mm
重量	……………6.4kg

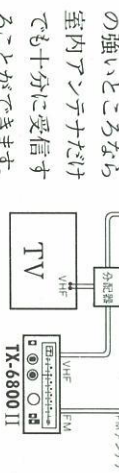
メーターはFM・TVでセンターチューニングAMでシングルメーターとして働かいやすい方式です。

メーターはFM・TVの受信時(VHFはフューンニング時)には、センターチューニングとして働きますから、これによって最良の同調点を選ぶことができます。またAM受信時には、入力の変調を表わすシングルメーターとして動作する、多用途な設計になっています。

アンテナ端子は、AM/FM/TV用がそれぞれ独立しています。

リアパネルのアンテナ端子は、AM用、そしてFM用(300Ω/75Ω)の2か、VHF-TV用(75Ω、300Ω) UHF-TV用(300Ω)が用意されています。アンテナ引き込みは、図のように配線することで、テレビ受像機のアンテナを共用することが可能です。

なお、テレビサントは、電波の強いところなら室内アンテナだけでも十分に受信することができます。



アンテナ、分配器、混合器、分波器については、ご購入の販売店が最新りのパンフレットに付属しています。

さらにローパスフィルターとして5素子構成の本格的LCフィルターを採用。これにより周波数特性を向上させ、サフキャリア比62dBを得ています。

同調フューンニングの良い大型フューンニング採用のチューニング機構。

チューニングのメカニズムには、慣性性能の良い大型フューンニングを使用しています。FM・AMの選局は実になめらかでスムーズ、ハイクラスなフューンニングを味わうことができます。

AM回路は、性能、音質を追求して新開発の高集積度ICを採用しています。

AM回路は、音質を重視し、新開発の専用ICを採用しています。このICは入力の強弱があっても、出力を常に一定に保つAGC特性がすぐれていますから、強電界でもひずみの発生が抑えられ、安定した美しい音質を再現します。

FM・TVの両方に動くミューテナスイッチと使いやすいレバー式セレクトスイッチ。

ミューテナスイッチはONのポジションでFM・AUTO及びTV(VHF/UHF)受信時の両方に動き、耳障りな局間ノイズをカットして、さわやかな選局を可能にしています。そして、セレクトスイッチは操作のしやすいレバー式の採用でTV・FM・AMの選択が快適におこなえます。

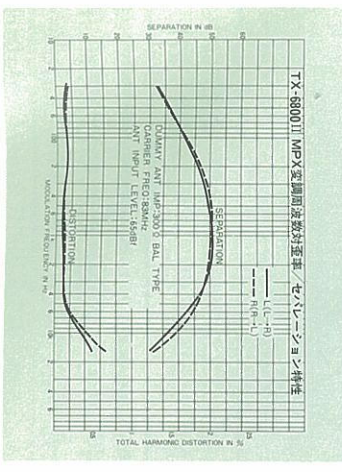
オ)と申し分ない数値です。こうした諸特性の高さによって美しい音質を実現しています。

IF段のセラミックフィルター間に、段間アンプを設け、同調特性を向上させた音質重視の設計。

同調の最良点1点で、いかにひずみ率がすぐれていても、ちょっと同調がずれただけで急激にひずみが増加するのでは、あまり実用的とは言えません。TX-6800IIでは実用性を高めるため、IF段のセラミックフィルター間にトランススター1石の段間アンプを設け、利得を上げて平坦な位相特性を確保しました。これによって同調特性を向上させ、多少の同調ずれがあってもひずみの増加やセパレーションの劣化を抑え、音質への影響を極小にしています。またこの回路によって、大入力時のひずみ特性を改善し感度も向上させています。

MPX部にはPLL回路の専用ICとローパスフィルターを採用。安定したセパレーション特性による美しいFMステレオを再現します。

FM放送の魅力は、なんといっても美しい音質でステレオ放送が楽しめる点にあります。ですから、セパレーション特性を決定するMPX部の性能が、きわめて重要になります。パイオニアでは、他社に先がけてPLLをMPX部に導入しすぐれた性能を得てきましたが、本機でもIC化されたPLL回路をMPX部に採用。これによって、経時変化や温度、湿度の変化による特性のズレがなく、安定したセパレーション特性で美しいステレオ放送を再現します。



JA-T1 FM専用アンテナ……………¥4,000

FMの音質を大切にしたい、中・強電界用FM専用アンテナです。位相差給電方式による優れた指向特性。小型で軽量の、取付場所を選ばない2素子アンテナです。●75Ω、300Ω共用。